

# 2号機 PCV内監視計器の再設置について

平成26年1月30日

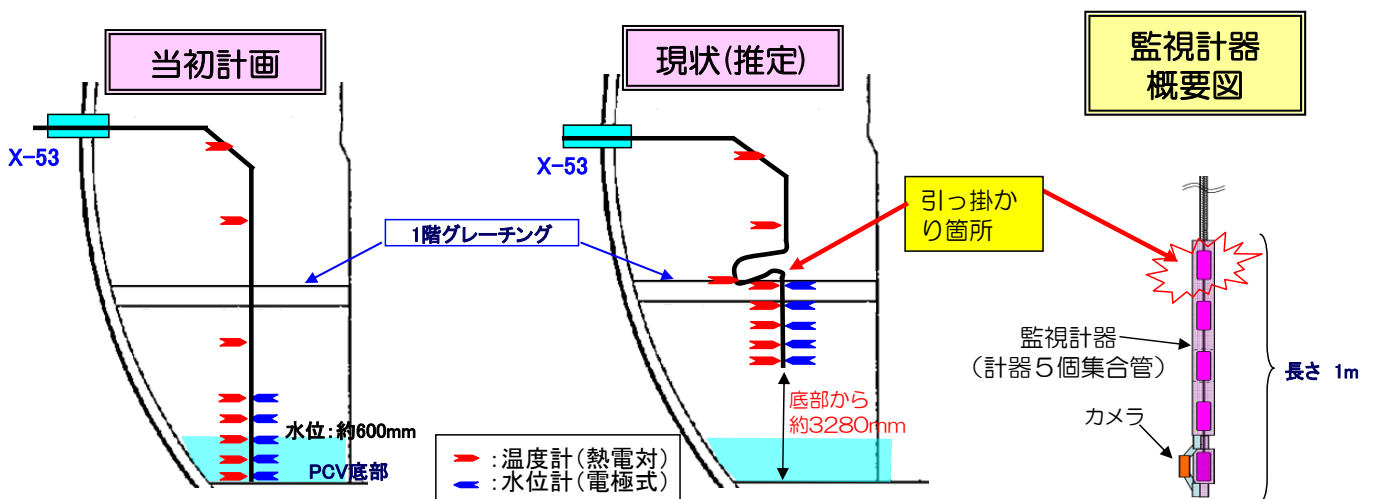
東京電力株式会社



## 1. 概要

### ■これまでの状況

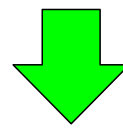
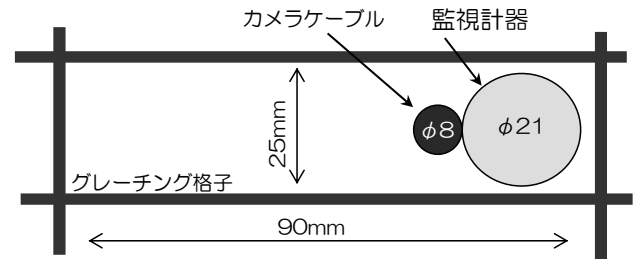
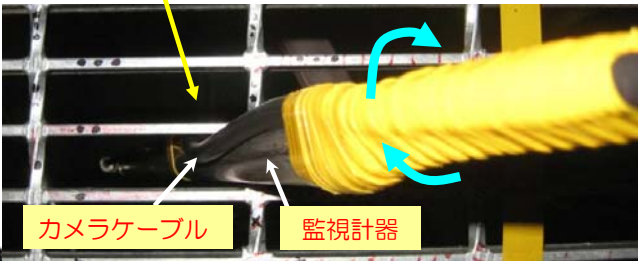
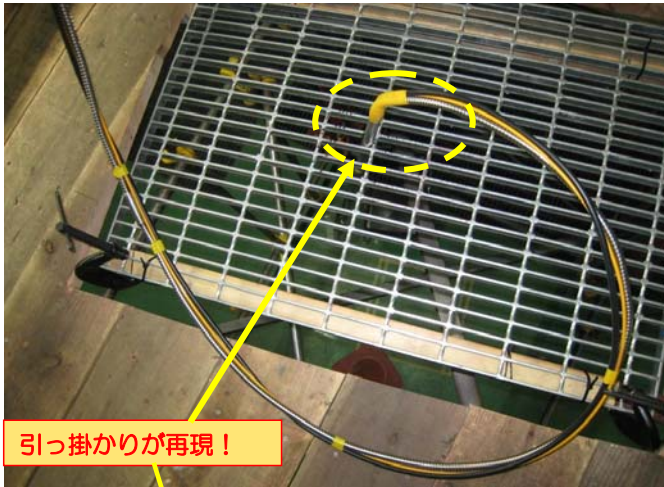
- 平成25年8月、2号PCV内部調査の実施にあわせ、PCV内水位・温度の監視計器の設置を計画。
- 挿入途中でグレーチング床に監視計器の一部が引っ掛かったため、監視計器は水面やPCV底部には未到達。（水位や水温は監視できていないものの、PCV内の気相部の温度は監視できている状況）



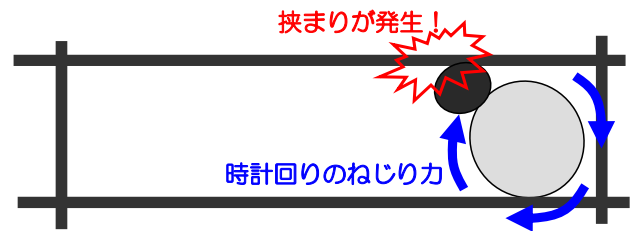
## 2-1. 再現試験による原因調査

### 原因調査（工場再現試験）

- 当時の施工状況を模擬した再現試験により、ケーブルの回転（ねじれ）によりグレーチング通過時に事象の再現が確認された。



挿入操作を容易にするため及びグレーチング格子通過の位置合わせ時に操作パイプを時計回りに回転させた。



## 2-2. 再現試験による原因調査

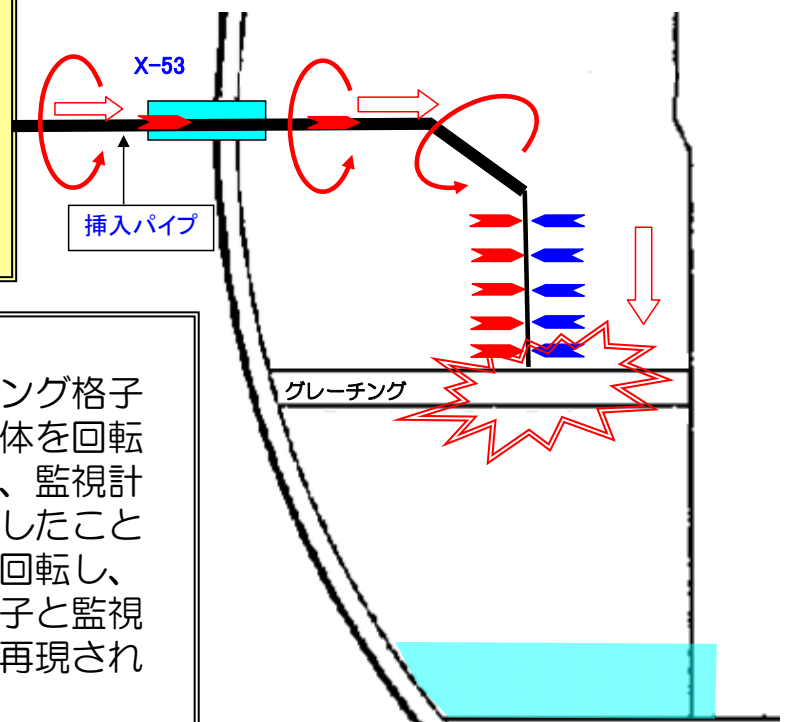
### 【当時の現場挿入手順】

挿入パイプの挿入操作がきつかったため、パイプを回転させながら挿入。回転方向は挿入パイプの連結ネジの緩み防止のため、時計回りのみに限定していた。（手順書記載の操作）

### 【反省点】

事前訓練ではパイプの回転操作を模擬できていなかった。

### 時計回りに挿入操作



### 【再現試験による結果】

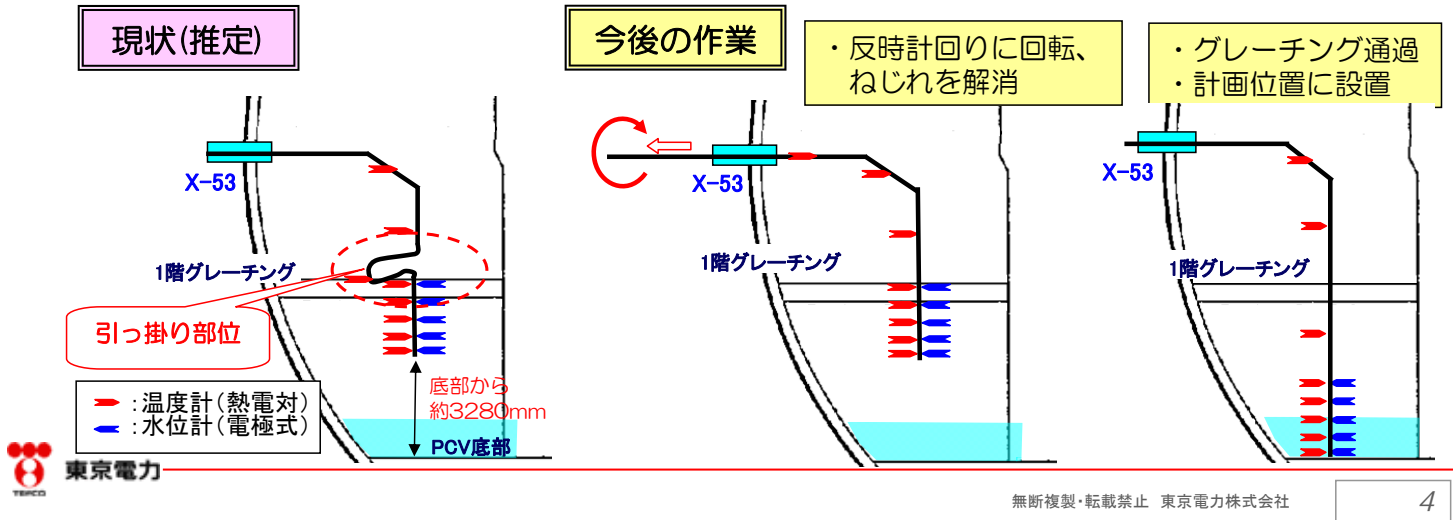
・ 挿入パイプの挿入操作及びグレーチング格子通過位置合わせ時、一定方向に装置全体を回転させた結果、グレーチング格子通過中、監視計器先端部（集合管）にねじり力が発生したことにより、監視計器とカメラケーブルが回転し、カメラケーブル部位がグレーチング格子と監視計器先端部（集合管）に挟まる事象が再現された。



# 3. 今後の作業

## ■今後の作業概要

- 現状の監視計器を継続利用する。(PCVからの引き抜きは行わない)
- ケーブルを反時計回りに操作することによりねじれを解消し、グレーチング格子を通過させ、当初の計画位置に設置する。
- 作業には約40分を要する見込みであり、一部手感覚のみでの作業が要求されるため作業班の途中交替は望ましくない。そのため作業被ばく低減及び作業時間確保のため、2号機R/B内の除染作業終了後の4月上旬に実施予定。
- 上記作業にて監視計器のグレーチング格子通過が出来なかった場合は、引き抜き又は切断等、次の作業に移行する。



## <参考> 監視計器の構造

